

戦争法案めぐり学会に自界叛逆!

各地の学会員が公明党に怒りの声

創価学会でいま、深刻な自界叛逆が起きつつある――。

「平和の党」を掲げながら安倍政権と結託して戦争法案成立に血道を上げる公明党に対し、全国各地の学会員

が公然と怒りの声を上げ始めたのだ。その動きはデモ、署名活動、勉強会、インターネットでの呼びかけ、さらに創価大の教員らの「有志の会」結成等と、いま大きなうねりになりつつある。

のは衆院で法案が強行採決された頃からで、国会前や各地の戦争法案反対デモでは、学会の三色旗をモチーフにしたプラカードも見られるようになった。

プラカードには「バイバイ公明党」「仏罰↓公明党」等と書かれており、その様子はテレビや新聞等でも報道され、学会員の立場を隠すことなく堂々とインタビューに答える姿もあつた。

創価大教員も

反対声明

三色旗掲げデモ

学会員が戦争法案に反対の声を上げ始めた

八月一日には、創価大や創価女子短大の

表明します」との声明を出した。同大教員らはホームページを開設して賛同者を募っているが、八月二九日現在、一千六百人を超える関係者から署名が寄せられている。

憲法学者を招き

勉強会

八月二二日には大阪市内において、学会員のグループが憲法学者を招いて勉強会を開いた。参加した学会員は約百名。

講師は衆院の中央公聴会で野党推薦の公述人を務めた木村草太・首都大学東京准教授。同准教授は国際法や憲法の観点から安保法案を分析し、「規定が不明確で、恣意的な権力の乱用につながる」と指摘し、同法案を憲法違反と断じた。

これに対し参加者からは「本来はブレーキ役になるはずの公明党が法案成立を後押ししているのはおかしい」等の意見が出された。

「第三文明」にも

法案反対の記事

これら学会員の動きに連動するように、学会系の雑誌「第三文明」八月号にも安保法案反対を主張する記事が掲

載された。

同記事は前出の木村准教授へのインタビューで、同准教授は「憲法も法律の文言も無視して武力行使も構わないとする態度は、憲法九条に違反するしないという以前に、『法の支配』や『立憲主義』といった国家の基本原則まで否定しています。かなり恐ろしい議論を進めていることを自覚すべきです」と述べている。

さらにツイッター、ホームページ、街頭等で、戦争法案反対の署名活動を進めたり、デモへの呼びかけをしている学会員もおり、いま学会員の間には様々な形で怒りの声の広がりがあつた。

早く「極限の大謗法」に気づけ

いまのところ、学会員の批判は公明党に向けられている。しかし、そもそも公明党は池田大作の私党であり、学会と一体である。ゆえに学会員が公明党だけを批判しているのは矛盾であり姑息である。

何よりも成仏を願うならば、早く学会の「極限の大謗法」に気づき、その悪を責めなければいけない。



公明党を批判するプラカードを手に、デモに参加する学会員